

Servas Japan Tohoku



支部ニュース

No.82

[支部長挨拶](#)

N. T (新潟)

[支部総会報告](#)

N. T (白石)

[トラベラー報告](#)

S. M (仙台)

[寄稿](#)

Peace Secretary

N. T (白石)

[事務局から](#)

S. M (仙台)

TOHOKU

支部長挨拶

つながりを深めた支部総会！

N. T (新潟)



皆さん 支部総会本当に良かったですね。Mさん、Nさん、Hさんはじめ関係者のお世話のおかげで、無事に楽しく、また安く快適なホテルのような場所で一夜を過ごせたのは感激でした。また東海、東京からも仲間がお出かけ頂き、感謝に耐えませんでした。本当に楽しかったですね。個人的には、二本松は浪江町のYさんご家族が我が家から移転して2年になることから懐かしさがひとしおでした。皆さんお元気でお過ごし姿を拝見できて、これも良かったです。さらにNさんから、観光までガイドしていただいて、こんな幸せはありませんでした。鎌倉屋さんの寿司もおいしかったし、二本松の少年隊や、光太郎のこと・千恵子のふるさとも触れられました。帰路は喜多方で地元で教えてもらったかんぱんの無いお店の美味しいラーメンを一人500円で腹いっぱい頂きました。これからも、つながりを得たら大切に『出会い、ふれあい、磨きあい』をしていきたいと思っています。

我が家では、Kが6月5～6日に修学旅行に出かけました。前夜はなかなか寝付けなかったようですが、天候に恵まれ、会津猪苗代に1泊2日でした。私は小学校の時は赤倉温泉でした。今年は福島づいていますね。やはり、東北は何か心が休まるというか、ホットな感じを受けるのは私だけでしょうか？

今回の支部総会を通じて、東海支部の支部総会の持ち方も参考になることを教えてもらいました。同じ1泊でも買出ししてお料理をみんなでやりながらの方法もあり楽しかったとお聞きしました。私も会議中心よりも会員の親睦を兼ねての方もいいかと思っています。皆さんいかがですか。



支部総会報告



本年度の支部総会を5月18日に開催しました。東北支部の総会としては1泊することは今まではありませんでしたが、初めての試みとして、東海支部や九州支部のように総会の後で懇親会をして(希望者には観光も)会員同志の交流を深めたいと考え福島県二本松市の「福島男女共生センター」を会場・宿泊場所として懇親会、翌日の観光をセットしました。

会場は仙台から自動車道で1時間半。新潟からも同程度の時間的な距離にあり、集まるのにはとても

便利であったと好評でした。建物はとても美しく、会議と宿泊を楽しむことができました。

5月18日(土)は朝からよく晴れていました。自動車道からの吾妻小富士はまだ白く雪が残って、とても爽やかでした。

二本松ICで降りて左方向に向かい10分程度で「男女共生センター～女と男の未来館～」に到着。閑静な丘陵地帯のしかも小学校の向かい。高校が近くにあることからラウンジでは土曜日の学習に勤しむ高校生も多く、落ち着いた場所での会議となりました。入口ロビーにはNさん(福島市)が待っていてくれました

11:00 関東支部からIさん、Cさん。東海支部からYさんとお友達のDさんの4名が参加。東北支部では新潟からはTファミリー(4名)T、Mの6名。山形からはTファミリーの2名。岩手県からTファミリー5名。福島県からN、H。宮城県からT、M、S、Tの4名の計23名が参加しました。

子供たちのいる会員は子供用の食事を求めて外食。会館で昼食をとった大人組は久しぶりの再会に話が弾みました。

13:00 支部総会は①支部長挨拶、②自己紹介③ゲスト紹介④収支決算報告⑤サーバス体験談をもとに座談会。予定は滞りなく進み、今回参加していただいた東海、関東の方々から感想もいただきながら和やかな雰囲気。

東海のYさんからは、「例会はお互いのコミュニケーションを大事にしています。温泉に行ったり料理を持ち寄ったりして楽しく過ごします。」というお話もいただきました。確かに「総会」という言葉より「懇親会」の方が親しみも暖かさも感じます。そうすると年に一回よりは数を重ねたほうがいいに違いない。会員の国内旅行を奨励する延長に各支部主催の支部の枠を超えて参加する懇親会もまた新しいサーバス活動のカタチなのかもしれませんね。

もちろんMさんからは「トラベラーから連絡があったら是非引き受けて欲しい」という熱い思いも披露されて、楽しい話に多少時間をオーバーして総会は終了。



15:05からアトラクション

支部長婦人の紙芝居ならぬ布芝居「おむすびころりん」に参加した子供たちはすっかり魅了されました。紙でなく布に縫い付けたキャラクターは大きく、紙芝居とはまた異なる趣がありました。とても優しくお話されましたので、暑さも手伝って何人かの大人はコックリ。まったりとした午後となりました。

15:30 いよいよBさんの馬頭琴演奏。

Mさんの紹介に、Bさんが流暢な日本語での挨拶にびっくり。演奏は胡弓にも似た音色でしたが筐体が大いなので音もダイナミック。なんといっても圧巻はモンゴルの競馬を表した曲。モンゴルでは子供たちが騎乗しての競争。多くの馬がエントリーするので、その土煙で足の遅い後ろになると大変なことになる・・・というお話で笑いを誘われ、その情景も浮かぶようなエネルギッシュな演奏に、ジンギスカンも子供の頃は大地を駆け巡っていたのだろうかと考えていました。

「衣装が美しいけれど厚地の正装は暑いでしょう」という声に、まさかTシャツでこの演奏では誰も聴いてくれませんし・・・しかもこれは夏服です・・・にまたびっくり。

・・・冬は毛皮が中に入った服になるのももっと重く暖かいのです。モンゴルの冬はマイナス40度になるんですから・・・にまたまたびっくり。

サーバスにふさわしい国際色あふれるアトラクションになりました。



宿泊者は夕食後に和室に集まってアルコール入りの懇親会



初めてお話をする方もいれば、久しぶりに顔を合わせる方もいて楽しい話に花が咲きましたし、会員がお互いの趣味や興味を和気あいあいに披露する場ができたことがなにより大きな収穫でした。



19日 午前にはNさんの案内で「霞ヶ城公園」に登りました。天守閣の場所はまさしく霞のかかるような「天空の城」。天守閣の敷地は狭く城壁も高く、難攻不落の城だったに違いあ

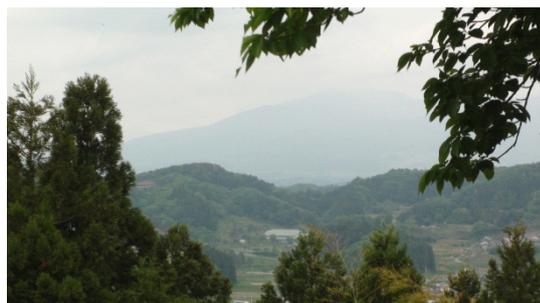


りません。伊達政宗の父輝宗をだまして人質にとったのは畠山義継（二本松義継）。政宗は一気に二本松まで駆けつけて、この地形を見て兵糧攻めにしたのもうなづけます。日本100名城の一つに挙げられている理由がわかるのはもう一つ。大手門というべき箕輪門。これは壮大で圧巻。(左：箕輪門。天守閣は山の頂上にあつて、ここからは見えません)

次に案内していただいたのが「高村智恵子生家」とその裏にある鞍石山。この山の名の由来にまた驚きました。なんと片倉小十郎がこの山に陣を敷き、遙か西にそびえる「天空の城」にそびえる天守閣を見て、大きな石の上に鞍を置いたというのです。しかも高村光太郎と智恵子は、智恵子の家の裏から続く小径をこの山まで散歩していたのです。西に「天空の城」の彼方にある安達太良山、東に悠々と流れる阿武隈川を見て詠ったのです。



「あれが阿多多羅山、あの光るのが阿武隈川。ここはあなたの生れたふるさと、あの小さな白壁の点点があなたのうちの酒庫・・・」



確かに森の向こうに蛇行する阿武隈川は、光らなければ川があるのもわからない。うっそうとした林に囲まれて生家の屋根すら見えない今も、白い壁すら昔は見えていたのでしょうか。智恵子の育ったこの二本松の地を愛おしく想っていた光太郎の気持ちが伝わってくる純愛スポットでした。

Nさんにガイドしていただいて、サーバスのホスピタリティをあらためて感じた観光地散策でした。ここで新潟ファミリーともお別れして、二本松駅で東海、関東の方々とは昼食となりました。

夜に届いたMさんのメールで、報告をしめくりましょう

「皆さま こんばんは。お疲れではありませんか。

1泊まりの総会いかがでしたでしょうか。

皆さまにはいろいろご協力いただきありがとうございました。

総会の二日間.....話に花が咲いて。

市内3か所観光の後も「浪江焼きそば」を食べることになり、その後もまだ別れが多く、喫茶店でコーヒーを飲んで午後2時の解散となりました。この二つは予定には入っていませんでしたが、関東支部のお二人から「もっと話したい!!」と嬉しいリクエストがあったからです。嬉しいことです。

解散の後、Tさんの車で我が家まで送っていただきました。

東海支部のお二人に仙台や名取の閑上地区など住宅団地が津波に流されてしまった現場を案内していただいて、被害の恐ろしさを再認識しました。

東海支部のお二人は我が家に1泊して明日の晩のバスで名古屋に帰ります。

私にとっては少し疲れましたが、楽しい二日間でもありました。

どうぞ11月の中国・広州市で開催のサーバスアジア・ミーティングにこのままのりのりで参加していただきたい思います。それでは お休みなさい

S.M

(Sunday, May 19, 2013 10:45 PM)

(文責 N.T)

トラベラー報告

2013-4/20-22日

© イスラエル J. & A. G

S.M (仙台)



イスラエルから久しぶりのトラベラーを迎えました。仙台の桜の開花が例年より10日間程遅れて、Gご夫婦の到着の日はちょうど桜の満開の時でした。満開の桜をことのほか気に入ってくれて、迎える私もとても誇らしく感じたのを思い出します。

私たちが生きる現代社会は毎日めまぐるしい速さで変化していき、サーバスのトラベラーを受け入れる側も一昔のように純粋に「トラベラーを自宅に迎え、楽しく語り合う」という訳にはいなくなってきました。イスラエルはアジアの国の一つであるにもかかわらず、マスコミを通して知らされるニュースに影響されてしまうのでしょうか、私にとって親近感のある国とは言えなかったのです。

G夫婦はイスラエルを偏見を持って見てしまう人たちのために用意してくださったのでしょうか「現代のイスラエル」を映した5分間のテープを見せてくれました。テープの画面は軽快なリズムと共に私たちが初めて見る現在のイスラエルという国でした。パレスティナとの長い間の紛争などには全く触れず、次々と画面は美しく、活力のあるイスラエルの繁栄する姿が映し出されていました。G夫婦も私たちのプラス思考の反応にとっても嬉しそうでした。その後、Googleでテルアビルの彼らの自宅マンションも見せてくれた。彼らの自家用車まで映っていたのですからビックリしました。

トラベラーの持参するものもIT化によってどんどん変化してくるのが肌で感じます。

多くのトラベラーが家族の写真をたくさん持参して、食事時に見せてくれるのがつい最近まで極々普通のことであつたのですから。

私たちがこれからサーバス・トラベラーとして他国に滞在の時には、彼らの持参したような「5分間テープ」は効果的ではないかと思えました。



25年ほど前に滞在のイスラエルのトラベラーにユダヤ教として禁じられている「豚汁」を作り、怒られたことがありましたが、今回のG夫婦のように、料理に豚肉さえ除けば何でも食べてくれて料理する私の負担は少なくて助かりました。菜食主義を強く主張するサーバス会員よりもむしろ気を使わなかったかもしれませぬ。「イスラエルに来てください!」そして安全な国だということを実感してくださいと招待を受けましたが、私にとって、実現には少し勇気が必要かもしれませぬ。

2月2日～3日 一泊

© ドイツ J.W

高湯温泉で入浴。たまたま他の家族が子どもと入ってくる。除染の工事現場と仮設住宅の見学を車の中から実施。日本には何度も来ている。今回は出張で、三沢に在住して六ヶ所村に通っているとのこと。国際情勢にも詳しい。2/8には帰国の予定。

寄稿



「船を残そう」

Peace Secretary N.T (白石市)

Google



2011年3月11日(土)午後3時半 津波は北太平洋の宮城県沖から北上し気仙沼湾を内陸に向かって進みました。

気仙沼市港周辺市街地では建物の2階部分まで浸水し、第18共徳丸は、全長約60メートル、総トン数330トンの大型巻き網漁船で、港から300m内陸の気仙沼市鹿折唐桑(ししおりからくわ)駅前にある東浜街道(県道34号線)沿いまで流されました。この地区は、津波のあとの火災で西側のJR線と東側の鹿折川(ししおりがわ)に挟まれた地域は壊滅状態となり、数ヶ月の間立ち入りが禁止されました。

現在は、倒壊した建物や自動車の残骸、被災した建築物が取り除かれて空き地が広がり、道路も清掃されて走りやすくなっているため、この船だけが大きく異様に見えています。

第18共徳丸を所有する水産会社は、破損して迷惑をかけたくないで解体したいという意向を市に伝えていましたが、市民の間では賛否が分かれています。

津波の被害を身にしみて感じる人たちは、「見たくもないので早く撤去して欲しい」と言います。また、「船があるだけで人が見に来る。事実、第18共徳丸の周辺には時折り停車して写真を撮ったり、近くの供養台で手を合わせている人達があります。地元の人たちは船の前を素通りするだけなので、どれだけの人がここに来ているかはすぐわかる。」だから残すべきだという人もいます。

意見は半々だと言います。

この地域は津波のあとの火災でほとんどの家を取り壊されて工場なども撤去されて見通しが良い。南側の気仙沼港には復興屋台村があるものの、魚市場の周辺には工場も家もありません。このような状況下では、撤去するか残すかという論理を撤去に賛成か反対かという簡単な論理で置き換えては話は進まないのです。他の地区で「前回ここまで津波が来た。」というモニュメントより高い波が来てそのモニュメントを破壊していた。それも凄いことだと思うが、津波のパワーを教えるのにこの船ほど衝撃的なモニュメントがあるだろうか。コンクリートの防波堤すら倒れ、JRの橋脚も流されたがそれらをモニュメントとして残すより与える衝撃ははるかに大きいだろう。鯨が大きいことを絵本で教えるより、骨格標本を目の前にした大きさの衝撃は比べようがないものだ。まさに「論

より証拠」、「百聞は一見に如かず」である。しかも周囲が整地されていけば被災そのものもなかったかのように風化していく。風化を止め、次の世代や他地区に住む人々に警鐘を鳴らし続けるためにも残す努力をすべきである。

そこで、日夜努力している気仙沼市長に「頑張れ」とメッセージを送って下さい。

事務局から

① 2013年11月開催 東アジア会議参加のご案内

皆さん、こんにちは。

今年の11月15日～17日に開かれる、第7回 東アジア会議についてご案内申し上げます。

東アジア会議とは2年に一度開催されるものです。私はソウル・台北・別府・香港の会議に参加の経験があります。サーバスの国際会議とは違い、同じアジア人同志としての意識が温かい会議になるのでしょうか。素晴らしい思い出ばかりです。

アジア会議で使われる英語を母語とする国の人はいないので、会議の進行もゆっくりで、参加者に親しみやすいと思います。どうぞ奮ってご参加ください。(事務局 M)

開催概要

日時 2013年11月15～17日

場所 中国広州市中山大学

会費 230USD *3日間・3食・大学内ホテル代(ダブル、ツイン)を含む

参加希望者は、2013年7月31日までに事務局にお知らせください。



中国南方航空を利用すると、日本から広州まで直行便が出ています。中国サーバスでは、できるだけ空港でお迎えしたい、と言ってきています。

参加者の氏名・性別を明記して下さい。また、航空便名もお願いします。

第7回東アジアミーティングのご案内

日時 2013年11月15, 16, 17日

場所 中国広州市中山大学

日程

15(金) 18:00~21:00 歓迎会

16(土) 09:30~09:40

挨拶 *中国会長、東アジア AC

09:40~09:50 挨拶 *ゲスト

09:50~12:00 報告 *各国会長

2:00~13:00 昼食

13:00~16:00 グループ・ディスカッション~ 中山大学の学生有志も参加

*東アジア圏交流の活性化

*海外からのトラベラーを増やす手立て

*各国における文化活動

16:00~16:30 各グループ MC による報告

16:30~17:00 次期開催地

17:00~19:00 夕食

17(日) 09:00~09:30 諸連絡

09:30~09:40 集合写真撮影

10:00~15:00 広州市内観光

20:00~22:00 真珠川クルーズ

会費 230USD *3日間・3食、大学内ホテル代(ダブル、ツイン)を含む

お知らせ 1) 広州国際空港または駅で出迎えあり

2) 会終了後さらなる滞在 OK

3) T会長からのお誘い「別荘滞在如何?」 *マカオ近く

② 会報の原稿について

原稿送附はeメール、ハガキ、手紙等の方法でも構いません。

他支部から東北支部へのご寄稿、ご協力もよろしくお願いします。

今回訪れた高村光太郎の智恵子抄の一節「・・ここはあなたの生れたふるさと」にあるように、サーバスホストはトラベラーに自分の生まれたところ、住んでいる地域を紹介をすることに大きな意味があるのではないかと感じています。ホストリストには自分の趣味などほんの少しのことしか紹介していませんが、サーバスの活動として、自分の住んでいる地域を積極的に紹介することが大切なことであるに違いないと思います。

原稿内容は自由にお考えください。国内旅行で楽しかったところ、ツーリングで面白かったところ、近所の名所旧跡など、伝えたい身近な文化や随想などをお寄せ下さい。新しい発想が新たなサーバス活動につながることを期待しております。そして、サーバスならではのホスピタリティにつながることを期待しております。